

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年6月2日

1 事業名	陸上競技場管理事業			コード	113401	
2 担当部課	部等	教育部	課等	スポーツ振興課	作成者	伊藤 雅章
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	文化・スポーツの振興	施策	スポーツの振興	
		予算科目	陸上競技場管理事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	なし			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
施設の概要 （簡潔に）	日本陸上競技連盟第4種公認競技場（300m） ※岡谷東部中学校校庭	
目的	対象者	市民全般
	意図	陸上競技場利用者が、安全・快適に利用できるよう、施設の適正な管理運営を行う。

5 施設の管理運営状況	
指定管理者	25年度指定管理料 円
施設における 通常業務	陸上競技場の維持管理、施設の使用許可、陸上競技場の環境整備
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) 陸上競技場の維持管理、施設の使用許可、陸上競技場の環境整備
前年度の課題 への対応	陸上競技協会やPTA作業などに協力を要請し整備を行った。

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	1.1%	0.8%	0.6%	
年間開設日数（日）	366	365	365	365
1日の開設時間（時間）	12	12	12	12
年間利用可能時間（時間）	4,392	4,380	4,380	4,380
年間利用実績（時間）	48	37	28	
② 年間利用者数（人）	1,133	1,177	739	1,177
有料利用者数	0	0	0	0
無料利用者数	1,133	1,177	739	1,177
減免措置者数	0	0	0	0
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	3.1	3.2	2.0	3.2
⑤ 施設利用状況の説明	市民陸上大会及び前後期陸上教室等に使用。			

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	502,770	8,071,298	119,200	112,000
経常経費	241,500	112,298	119,200	112,000
臨時的経費	261,270	7,959,000	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	800,000	800,000	800,000	800,000
正規職員の人数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10
③ 合計コスト(①+②)	1,302,770	8,871,298	919,200	912,000
前年度比		681.0%	10.4%	99.2%
財源	1,302,770	8,871,298	919,200	912,000
一般財源				
内訳	0	0	0	0
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	919	775	1,244	
前年度比		84.3%	160.5%	
⑧ コストに関する補足説明	例年開催している岡谷市民陸上競技大会が、雨のため中止となり利用者が大幅に減となったため。			

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比 62.8%	0
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	中学校の校庭と兼用であるため、グラウンドが荒れてしまうことが課題である。	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	陸上競技協会やPTA作業などに協力を要請し整備を実施する。	
改善開始時期	平成26年4月	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
予定事業費	円	予定時期	
内容			